

# 広島工大同窓会会報

第 12 号

広島工業大学同窓会  
広島市外五日市町三宅  
発行所  
中原重男

## 第13回定期総会報告

### 職場支部を結成しよう!!

第13回定期総会が去る4月29日に市内紙屋町の広島バスセンタービル9階の会議室において開催された。例年の如く出席者は多数とは言えず、50数名であった。総会では中原会長の挨拶で始まり、その中で職場支部結成を奨励することを述べられた。以下その内容について述べてみます。

数年前から組織について幾度となく役員会および幹事会などで討議されてきたが、従来までの組織を見直すことの必要性は常に感じているにもかかわらず、さてどのような組織でこれからの同窓会を運営すれば、会の目的に達成しかつ維持できるか、なかなかその結論に達するまでには至っていない。ましてや「同窓会の目的とは何か」と言う問題でもいろいろな意見があり、結論すら出ていない。そのような状態で組織の見直しを考へることは、同窓会発足10数年では早計ではあるまいかとさえ思われる。

しかしながら年間1,000人あまりの割で会員数が増加している本同窓会では現状の組織ではどうしても全体を把握することは不可能であることも事実である。それでは現状の組織をどのように考へたら良いか、また見直すにしてもどの程度行なえば良いかとなると、まず規模的には小さくても現在何らかの形で本学同窓生によって組織されている職場組織を支部として認めることにより同窓会としての団結を推進してゆくことになろう。

しかしながら支部要素としては、各学科、各卒業年度、各研究室および各種団体などいろいろなものがあると思われるがそれらを支部として考へるには、まだ多分に討議すべき問題があり、統一した結論に至っていない。その結果前述のように、すでに何らかの形で組織化されている職場組織を支部として認めることにより組織を見直すことになっ

た。その後前述の支部の要素について当然のことながら討議されなければならぬと思う。また組織の充実に伴い事務の複雑化と云うことも当然問題となって来る。そこで名誉会長の前川学長も挨拶の中で述べられたように、同窓会事務の一部を大学事務に組み込むことにより同窓会に対して援助して戴くことになった。

なおこのことは昨年度鶴理理事長からも同窓会事務の依頼に対して、文書により快諾を得ている。現在名簿の整理、会計業務および各援助窓口業務等の協力を得ているが特に名簿の充実と云う意味から原簿の修正のため今年の夏季休暇期間を利用して大学事務関係からの援助をお願いすることになっている。

以上のような情勢のもとに今回の総会は活発な意見が出された。結論的には今後とも大学の協力のもとに同窓会をますます発展させ、会員相互の連絡を密にすることを意を固くし閉会した。引き続き鶴理理事長を始め、多数の教職員および全員の参加のもとに懇親会が開かれた。

以下審議事項の主なものについて述べる。

- ◎昭和52年度活動報告
1. 同窓会会報第11号発行
  2. 準会員に対する援助(体育祭、大学祭、遠征費、卒業記念品、同窓会奨学金)
  3. 大学への同窓会事務依頼
  4. 支部活動の促進について
  5. 同窓会会誌第12号発行

◎昭和53年度活動方針

1. 会報、会誌の発行
  2. 準会員に対する援助
  3. 職場支部結成の奨励
- 会則が次のように改正され承認された。

#### 第6章 会 費 計 画

第17条 (原文)

準会員は正会員となる時終身会費として8,000円を納めなければならない。

(改正案)

準会員は正会員となる時終身会費として10,000円を納めなければならない。

※ 本年度名簿を発行するようになっておりましたが、現在住所不明者が多数あり、それらを明確にするため発行



を1年延期することが総会で決議されました。

少ないものと思います。住所変更は確実に連絡して下さい。

昭和54年に発行されます名簿は様式も変更し、不明者の

## 昭和53年度役員

会長：中原重男（子）  
 副会長：大藤英寿（機）藤内寿郎（経）  
 幹事長：伊藤秀敏（土）  
 副幹事：原田義治（気）松江孝博（機）  
 会計：重広孝則（子）福永保（経）玉野和保（子）  
 会計監査：沖根光夫（気）  
 書記：松広斉（経）富田道秋（土）  
 幹事：電子—村田弘志，川畑敬志，砂田謙二  
           電気—湯尻照，猪上憲治  
           機械—片山剛之丞，小西正明

土木—福田和晋  
 建築—首原辰幸，河内浩志，岩本慎二  
 経営—西田弘展，西野達夫  
 評議員：電子—河野信義，戸川誠  
           電気—可知英樹，森本房義，池田富喜雄  
           機械—小出憲二，砂原照雄，杉島民雄，  
           田村憲一郎  
           土木—橋村邦夫，竹原昇，中田進一  
           建築—金畑一郎，馬場富次郎，秋本孝，村上敬  
           経営—峠孝司，川口典，倉本敏行

## 昭和52年度会計報告（S52.4.1～S53.4.20）

### 〔決算〕

項目	収入	支出	残高
昭和52年度収入	13,222,317		
昭和52年度支出		4,811,527	
鶴虎太郎奨学会預金入		3,000,000	
合計	13,222,317	7,811,527	5,410,790

注1) 鶴虎奨学会に33,860,737円を定期預金として預けている。

2) 残高の内、4,000,000円は定期としている。

### 〔収入〕

項目	金額
51年度繰越金	4,825,484
入会金	1,594,000
總會会費	135,000
終身会費	6,440,000
広告収入	160,000
預金利息	67,833
合計	13,222,317

## 昭和52年度同窓会奨学会会計報告

項目	収入	支出	残高
昭和51年度繰越金	1,673,444		
奨学金基金	343,000		
奨学金基金	280,000		
定期		1,500,000	

項目	収入	支出	残高
奨学金 (¥36,600×10名)		360,000	
利息	15,261		
合計	2,311,705	1,860,000	451,705

### 〔支出〕

項目	予算	支出	残高
会誌発行費	2,110,000	2,074,400	35,600
会報発行費	500,000	499,020	980
總會開催費	430,000	349,980	80,020
在学生援助費	650,000	453,000	197,000
卒業記念品代	500,000	409,900	90,100
通信費	100,000	75,992	24,008
消耗品費	200,000	40,535	159,465
交通費	70,000	56,240	13,760
会議費	200,000	134,840	65,160
役員手当	122,000	51,500	70,500
支部費	100,000	30,000	70,000
調査費	* 130,000	117,770	12,230
備品費	50,000	0	50,000
委託費	200,000	45,000	155,000
奨学金基金繰込み金	400,000	343,000	57,000
鶴虎奨学会寄付金	100,000	100,000	0
予備費	* 270,000	30,350	239,650
合計	6,132,000	4,811,527	1,320,473

## 昭和53年度同窓会予算案

## 〔支出〕

項 目	予 算 額
会誌発行費	2,410,000
1. 印刷費(9,000部×100円)	900,000
2. 郵送費(7,500部×200円)	1,500,000
3. 交通費	10,000
会報発行費	685,000
1. 印刷費(9,000部×25円)	225,000
2. 郵送費(7,500部×60円)	450,000
3. 交通費	10,000
總會開催費	400,000
1. 懇親会(3,000円×120)	360,000
2. 交通費	10,000
3. 諸費	30,000
在学生援助費	650,000
1. 大学祭(30,000円×4)	120,000
2. 体育祭(50,000円×2)	100,000
3. 遠征費(60,000円×1)	60,000
卒業記念品代	500,000
通信費	100,000
消耗品費	150,000
交通費	80,000
会議費(会場6,000円×10回 飲食800円×20人×10回)	220,000
役員手当	127,000
1. 会 計(3人)	15,000
2. 会誌発行責任者	5,000
3. 会報発行責任者	2,000
4. 名簿発行責任者	5,000
5. その他(役員日当)	100,000
支 部 費	100,000
調 査 費	150,000
備 品 費	50,000
委 託 費	150,000
奨 学 金 繰 込 金	397,000
鶴 奨 学 会 寄 付 金	100,000
予 備 費	300,000
合 計	6,569,000

## 〔収入〕

項 目	予 算 額
昭和52年度繰越金	1,410,790
入会金(1,000円×978人)	978,000
總會会費(1,000円×70人)	70,000
終身会費(1,000円×800人)	8,000,000
普通預金利息	80,000
合 計	10,538,790

注) 4,000,000円を定期として繰越す。

## 〈同窓生の皆さんへ〉

## 証明書の発行について

学生部 教務課

「もしもし、教務課でございます。証明書は電話での受け付けをしておりますので、おそれ入りますが、直接来学されるか郵便で申し込んでいただけませんか……。」係のすまなさそうな声が聞えます。皆様方のなかで心当りの人もおありと思いますが、これも皆様方の学籍・成績管理をしております関係上、電話一本でご本人の確認もできず、ご本人の秘密に関する大切な事項を簡単に応じることができないからであります。お腹立ちのこともあるかと思いますが、事情ご賢察いただき、お手数ですがつぎのようにお申し込みくださるようお願いいたします。

## 諸証明書の発行申込み方法

1. 直接、教務課窓口の備え付け用紙による申込み
2. 郵便による申込み
  - 1) 氏名・生年月日
  - 2) 学生番号(お忘れの場合は入学年度・学科名を明記してください。)
  - 3) 証明書の種類・必要部数および送り先の住所(郵便番号を必ずご記入ください。)
  - 4) 証明手数料は返信用切手を同封の上、郵便切手で申し込んでください。なお、速達を希望される場合は速達料を同封してください。
3. 特別に急を要する場合は、教職員の知り合いの人か、または、後輩に依頼してください。
 

なお、証明手数料はつぎのとおりです。

  1. 卒業証明書 1部 100円
  2. 成績証明書 1部 100円
  3. 単位修得証明書 1部 100円

(教職・測量・電検・火業等、種類を必ず明記してください。)

厳しい社会情勢下ですが、ますます活躍されますことを祈っております。



# 大学だより

## 〈電気工学科〉

### 「Z旗上る就職戦線」

#### 同窓会先輩の皆さんにお願い

榊 茂 忠

同窓会の皆さん、お元気ですか。わが国は勿論のこと、世界的な経済不振の折から、皆さんの職場も大変なこととします。

このときこそ先輩諸君の頑張りが必要です。皆さん1人1人の頑張りが職場に繁栄し、やがてはわが国を豊かにして行きます。わが広島工業大学の就職もこの1、2年経済不況のため一段と厳しくなりました。皆さんの活躍状況は、各企業を訪問しましても大変好評であります。そのため求人状況も全国平均を上回り、下表のような就職状況になっています。しかし、これは皆さんの活躍のお陰と同時に全職員が一九となって就職活動を行った結果でありま

す。現在の不況が立ち直ることとしても、求人状況が急によくなるとは考えられません。今後益々皆さんの活躍に期待すること大であります。

ここで一つ同窓会先輩の皆さんにお願いがございます。この求人難を打開して行くために、各地域におられる皆さんが協力して同窓会支部を作られ、その支部を通して職場の状態や求人状況を母校にお知らせされ、求人募集に積極的なご協力をお願いできれば、後につづく後輩の活躍の場も拡大して行くものと信じます。

創立以来広島工業大学の教職員としての末席を汚している私に免じてよろしく願っています。

たまには広島への地にもこれ、母校の広島工業大学の発展ぶりをたずねて下されば幸いに存じます。

では元気で頑張って下さい。皆さんのご健闘をお祈りします。

### 昭和52年度就職状況

(昭和53年3月15日現在)

年度	項目	各工学科							合計
		電 子	電 気	機 械	土 木	建 築	経 営		
昭和52年度	在 籍 数 (A)	92	102	176	127	219	108	824	
	あつ旋希望数 (B)	86	95	169	113	199	106	768	
	内 定 者 (C)	84	89	165	111	118	103	730	
	内 定 率 (D)	97.8	93.7	97.6	98.2	89.4	97.2	95.1	
	求 人 件 数 (E)	73.5	884	973	719	766	768	4,845	
	(E) / (B)	8.5	9.3	5.8	6.4	3.8	7.2	6.3	
	延 求 人 数 (F)	861	1,076	1,227	948	1,002	1,051	6,165	
(F) / (B)	10.0	11.3	7.3	8.4	5.0	9.9	8.0		

## 〈機械工学科〉

### 新任あいさつ

教授 荒巻 誠 吾

(元三菱重工広島造船所研究所所長)

7,000余名の広工大の同窓会の皆様に新任のご挨拶を申し上げます。私は約28年間会社の研究部門に勤めていた者で先生としては全くの一年生であります。

さて、最近企業内では「技術の伝承が大切だ」と言うことが再認識されトップがそれを強調する気風がでているようです。技術とはやはり人から人に伝る生命のあるもので、単に資料やマニュアルやしてや設備などに依ってだけでは伝承されるものではなく、人脈に切れ目があると真の技術は受けつがれないと言うことのです。

命令系統の明確な企業内でもこのような問題があるとすれば、大学のようなゆるやかな人間関係の場では良き伝統

が育てられ且つ伝承されて行くことは容易なことではないように思われます。

私の所属しております機械工学科は教授クラスはほとんど企業経験の人であり、助教授・講師クラスはほとんど学校生え抜きの人と言う興味ある人員構成になっています。企業出身の教授が多いと言うことは、チームとしての物の考え方進め方がまとまりやすく有難い職場だと思ひ、私もこのチームワークを重んじたいと考えております。こうした人間関係のなから他の大学に負けない特色の芽がいろいろと生れてくるのだと思っています。

目にしみるような若々しい緑と長い坂のある学園に来て3か月ともなり、学園の気風にも少しずつ馴れて来ましたが、今後は同窓会の諸兄姉との交流がもっともっと密になり生々しい声をいろいろと聞かせていただければ非常に有難いことだと念願しております。

&lt;建築学科&gt;

&lt;土木工学科&gt;

## 窓のない部屋

山本 亮 亮

学生が……エスキースが出来ましたから見て下さいと言ってくる。よく見ると、その建物としては主要な部分の一つの部屋で本人は窓が必要なことは充分知っているが周囲を廊下や他の部屋にかこまれて密室の形になり窓がつかない状態になっている。いろいろやってみたが、うまくまとまらないので努力をはぶく意味もあって先生のお知恵拝借ということになったらしい。

原因は配置計画がまずいためで早々にやり直してもらうことになる。

また、その部屋が外部に面しているので充分に窓がつかれるのに、わざとつかない場合に出ることがある。劇場のホール、会議場、デパートやスーパーの売場、視聴覚教室、書庫、倉庫、更衣室、浴室、便所、階段室……それぞれの用途によって窓があっては困る・ない方が望ましい・なくても一向に差しつかえない・あった方がよいが無くても我慢ができる……など部屋の性質も多種多様であるが、特別なものを除いて一般に常時生活する部屋には窓が必要だと考えるのが定石であるというような話をすると素直に欠点をみとめて訂正をする。しかし、時には、それでも窓は不要だという学生があつて困ることがある。窓がいらぬ理由をたずねると……人工照明と空調設備があるから大丈夫ですという。

それで、窓のない部屋で毎日生活するとして何んとも思わぬかと聞くと……別に不自由なことはない周囲の雑音その他の影響から遮断されて気持ち落ちつきプライベートの面から此の方がよいのではないか……と不思議そうな顔をして私を見る。私も時々女房の顔をみるのりいやで一切のものから離れてあなぐらうような所に入りたいと思うことがあるので彼の言うところの、みずから断絶をのぞむような孤独感はあるけど理解できるものであるが、そんなことは例外で通常のことのような窓のない空間の生活から息ぐるしい拘束感のようなものは感じられないかと聞くと……そんなことは全然ありません、という返事である。

こまめで来ると、もう建築の計画技術などの専門知識以前の問題であつて、その学生の考え方が私が持っている社会観、人生観や常識の思慮分別をこえた領域のことであつて全く話が交み合わなくなり、とどのつまりは「縁なき衆生は度し難し」ということになり匙をなげることになる。この学生は少年期に「健っ児生活」をさせられたのではないかと疑いたくなり、でも一度、密室生活を体験させてみたら、と思ったりもする。

そこで、もし君がこの建物の経営を担当するのであれば窓がなくなるとの余分な照明、換気の施設費、それに続く経費を節約しなければ、ということで設計変更をなっとくさせてエスキースを再検討することになる。

x x x

## 野球と私

(エース4番をめざして)

二神 種 弘

2年前の梅雨の頃だったか、朝の散歩中に庶務課(現職就事務室)の菅氏より、教職員軟式野球部へ入部をすすめられました。

それまで私にとって野球といえば、昼休みのキャッチボールぐらいで、チームでやる野球は全々やったことがなく、ルールもスリーアウトでチェンジぐらいしか知らないといった調子でした。おまけに年も30+αで、ここ10年以上スポーツらしいスポーツをやっていませんでした。また、これまでがタガタでしたので、いまさら野球のような激しいスポーツができるかどうかと大変不安でした。

そんなわけで野球やるべきかどうか非常に迷いました。しかし、以前、東京の会社勤務中、チームワークを要するスポーツを若い間にやっていた人達が、困難な仕事を人の和を得ておぼろしく上手にこなしてゆくのを、自分もそのようなスポーツをやっておけばと後悔したことを思い出して、これからは遅くはないと、思いきって入部させていただきました。

最初の年は体がなまっていたため練習がえらかったですが、よき諸先輩を得た楽しい部活動のおかげで、「こんなに野球が面白いのなら、中学校ごろから始めて、今頃はカーブで活躍しているもよかったなあ」なんて思ったりもしております。

そして、どうせ野球をやるなら、あくまで目標を高く「エース4番」をめざし、それにふさわしい基礎体力とスタミナをつけるべく、2日目より毎朝、雨の日も風の日も山にあがって早朝トレーニングをやっております。

しかし、勝負の世界は厳しく、3日目をむかへ、目下、ライト補欠といったところです。でも、あせらず休まず着実に心技向上をはかり念願のエース4番を果したく思っております。

もっとも、工大教職員野球部の前途にとって、私の念願がかなうようではダメで、私がどんなに頑張ってもライト補欠といった状態ではなりません。

同窓会の皆様カーブのみならず工大教職員野球部にも暖いご声援をお願い致します。

## ◎住所変更等は

葉書きで!!

最近、卒業生で同窓会名簿を希望される方が急速に増えておりますが、同窓会と致しましては会員の皆様に出発のだけ送付する様に努力しておりますが、住所不明で送付の2~3割は返送の状態です。

住所、氏名、勤務先等変更された場合は、必ず葉書きで、卒業年月、学科、氏名(旧姓)現住所、勤務先等明記の上同窓会事務室まで連絡して下さい。

尚、準会員の方には名簿等は送付しておりません。

&lt;経営工学科&gt;

## 経営工学科避暑法

40代後半の男ざかりです。人生に何か一つのモニュメントを与えたいと願っております。その意味では最後の機会年齢かとも考えております。地味ではありますが、結局のところ自分の信念を経営工学科の教育に生かすことでしょ。これは夏の正夢、現実はずきびしい寝ても起きて就職/大学1年の長女管理/老眼と白髪/(園児康夫)就職状況は厳しく、夏は重要性の高くなった公務員受験時期のため、暑さを回避するための研究室の学生との1週程度のカンパの継続も危しくなっています。

(久保田洋志)

快眠(24時間の中、何時、如何なる時にも)快食(三食、たとえ粗食なりとも)そして再び快眠/(小林敏郎)スポーツ、レジャーに精を出し、十二分に汗を流し、ビールをグイとあおって昼寝をすること、これが一番です。

(斎藤敏雄)

暑い時には、凝りはじめたテニスやルームランナーで体を動かし、思いきり汗を流し、その後、プールで泳ぐことにしています。

(中原洋子)

暑いからといって、そこから逃げださないこと、むしろもっと厳しい暑さを想像あるいは体験する。釣り場での暑さ、砂浜での考える又は、暑いお茶を飲む、運動して汗を出す。心頭滅却すれば火も又涼し、である。

(中村佳正)

暑さをふきとばす方法は何もしない!!ただただガマンするのみ...はたまた、暑いと思わないこと!!(永井義孝)特に暑い日には、室の窓という窓を全て締め切り机の前にじっと座っている。ゼミ生の冷たい視線を浴びて、その涼しさは抜群です。

(西田弘展)

廃物の山と化した山海に涼しさを求めてもただ残るのは心の空虚さのみ。部屋窓を全て開放し、過ぎ行く風と一人、戯れるかな。

(西野達夫)

夕ぐれの 疲れをとばす 生の味  
我家で ビールののみみ 友の顔  
風鈴の 音の音高し 南風 (はやしひでお)  
暑さをふくとばすとは結局暑さを意識しないことだ。意識しないようには、積極的な方法と消極的なやり方があるが、暑さそのものの中に没頭することを「心頭滅却すれば火もまた涼し」という。

(正戸 茂)

夏は暑いものですから、もりもり食べて、夏バテをふせぎ、秋になってから大いに遊んだり、仕事をしたりしましょう。

(松広 斉)

260余文字の般若心経は、神前では室の御経、仏前では花の御経、まして人のためには祈念祈禱の御経である。心静かに讀み誦すれば暑さも吹き飛ばであらう。年をとったか。

(山本 博)

◎学園評議員に永見憲吾氏  
(電子工学科卒) 就任

永見憲吾氏は昭和20年1月20日生れ、広島大附属工業高

校を経て本学電子工学科を昭和42年3月卒業、現在学校法人IGL学園(広島・美鈴が丘サマエール幼稚園等)理事長として幼児教育に専念しております。

このたび、4月1日から本学園評議員に就任され、学園全般の教育に参画されることになりました。本学卒業生より学園評議員となられるのは中原重男同窓会長(現学園評議員)に次いで二人目となります。今後いっそう、母校愛をもって活躍されることが期待されます。

## ▶ 人事関係 ◀

◎新任(昭和53年4月1日付発令)

(所属)	(職名)	(氏名)
一般教育科	教授	中井正文
機械工学科	教授	荒巻誠吾
経営工学科	教授	小林敏郎
経営工学科	講師	斉藤敏雄
建築学科	助手	岩本慎二

◎退職(昭和53年3月31日付)

(所属)	(職名)	(氏名)
一般教育科	教授	古浦一郎
"	教授	辰宮栄
電気工学科	教授	佐藤彦一
一般教育科	助教授	尾原豊彦
建築学科	助教授	山本亮亮
"	助教授	吉田敏雄
経営工学科	助教授	田中宏二
建築学科	助手	見玉健太郎
事務局事務局	技術員	岩本勇
"	労務員	植松茂一
"	"	沼千代人
(6月30日付)	教授	石田重美
(6月25日付)	事務員	土河清恵

## 計 報

## 木村三郎先生



電気工学科、木村三郎教授は3月5日早朝自宅で急逝されました。3月6日実相寺にて葬儀が営まれました。

本学に就任以来、教育に挺身せられ不届の客となられたのは、かえすがえすも惜しまれます。謹んでご冥福をお祈りします。



## 沖野哲雄氏

(元事務局長)

元事務局長、沖野哲雄氏は自宅で加療中のところ6月26日朝心不全のため逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りします。



## 会 員 だ よ り

### 「経工会総会に出席して」

経営工学科45年卒

広 重 隆

広島工大経工会も発足4年目にして、ようやく第1回総会を本年4月29日に広島工大同窓会総会々場にて開催することができ、組織内の諸機能もやと動き出し、一人歩きができるようになりました。

この第1回総会の開催については、広島工大同窓会の大きな協力と理解を得ることができ、経工会々員一同深謝いたしております。

私もこの経工会総会に役員の一員として出席しましたが、この総会に出席して感じた事を、この誌上を借りて述べたいと思います。

そもそも、この経工会などのないいわゆる同窓会と言われる組織は、その会員の個人と個人との「結びつき」と、会員個人個人の同窓生としての意識の高揚の上に成り立っているものであり、同窓会の意義も会員個人個人にとって別個のものが存在するであろう。このような会員個人個人の「結びつき」も、組織が会員の増加などによって大きくなるにしたがって、しだいに淡薄化していき、組織自体の運営や組織が行なう活動も会員個人個人から遊離していくであろう。このような組織と会員との遊離現象を食止めるには、組織自体が会員という集団の欲求などを把握し、また期別の情勢などの変化を迅速とらえ、それらに応じた運営や活動ができるような柔軟な組織体制が必要ではなからうか。

具体的には、各ゼミ別、職場別、職種別、各研究会別などといった系列や地域別、卒業年次別などの系列を縦横自在に連結させた組織が考えられ、またこれらの組織の運営にしても、会員個人個人の考え方や欲求が何らかの形で反映されたものでなければならぬと考える次第である。

### 「同窓会報によせて」

土木工学科51年度卒

三 浦 宏

私が、土木工学科を卒業して、1年余り経ちますが、昨今、母校に接しますに、残念に思えることがあります。それは、土木教室全体の活気が薄れつつあることとあります。その理由として考えますに、学生の就職難ということもあるでしょうが、やはり、教室全体のスタッフが、あまりにも少ないこと、その上、研究環境、設備の整備がかたりに遅れていることがあげられると思います。しかも、個々には、かなりの設備を持ちながら、スタッフの少なさ故に、十分に活用されていないように思えるものもあり、残念でなりません。

教室のスタッフが少ないということは、先生方自身への負担が増すばかりではなく、学生にとっても、大変不幸なことなのです。何故ならば、先生方自身も専門外の講義を

される場合には、かなりの御苦労があると聞きます。その上、このような状態では、先生方の研究にまでその献寄せがいき、充分なものではないとも聞き及びます。このようなことは、学生も、何一つ満足のものはいくもは得られないことになってしまいます。それにもかかわらず、このような状態を、教授、学園首脳は何とも思われないのでしょうか。とても現状が満足できる状態だと考えておられるとは思えません。

スタッフを増すことだけで、教室の活気が増すとは言いきれませんが、少なくとも、先生方の負担は軽減され、研究に費やす時間も増すでしょう。そうすれば、結果的には、教室の、果ては学園全体の発展につながるものは大であることは明白でしょう。すなわち、教授、学園首脳に、前向きな姿勢がある限り、学園は発展を続けるはずなのです。これは私の独り善がりでしょうか。

同窓会も、今年10期生を加え、ますます大きくなっていきます。学園の、少ない研究費や、図書費、設備費等に、強力な援助をする機関としての同窓会を、私は望みます。

### 我 が 職 場

機械工学科46年卒

中村 幸人

友鉄工業物動務

同窓会のお世話をいただいている、機械工学科の小西先生には日頃からおつき合ひさせていただいておりますが、先日寄稿を依頼され、ギリギリになってペンをとっている所です。何でもよいからという事で（これが一番つつかしく）、会社及び卒業生の近況など紹介します。

当社は、広島市可部町に本社工場、広島市安佐西に安佐工場をもち、主に上下水道管物、定盤鉤物、機械鉤物等、月産400～500位製造しています。従業員は両工場合せて約70名と少なく、この中で工業大学卒業生は私を含め現在4名が、生産管理、溶湯管理、或いは現場での研修にと、忙しい毎日を送っています。また機械工学科の小西先生ともども、一杯のもうと集って連帯を深めたりしていますが、同窓のよさをこういふ時に感じるようです。

毎年盆にはクラブのOB会で工大を訪れますが、年々大きく発展しているのに驚かされます。当社も創立以来20年目を迎えています、工大OB4人も大きく飛躍したいものです。（7月2日）

### 42年電子工学科卒業生へ!!

#### 「四二会」発足

卒業10周年を記念して、大森寿男（大協）、片山国彦（大和電気工事）、柴田寿志（東空産業）の3氏が中心になり、昭和42年電子工学科卒業生に呼びかけて、お互いの親睦を深めようと、昨年10月15日～16日の2日間におたつて下記の14名が賀茂郡大町の「白竜湖ロッジ」に集り、10年ぶりの再会を祝った。

秋深まる15日の夜にすき焼パーティを催し夜明けまで学生時代を懐かしく、回顧しながら語り合う中で、誰ともなく、この仲間を拡大して会を形成しようという案が出され、満場一致で、42年卒業の年をとって「四二会」とすることが決定された。

翌16日は早朝から、白竜湖カントリークラブでゴルフ大会が開催され、その結果によって53年度の代表幹事が選出された。

「四二会」の発足に伴って下記の事項が決議された。

1. この会の名称を「四二会」とする
2. 毎年10月に会を催し、その都度次年度の代表幹事を選出する
3. 会員の拡充のため、事務連絡担当者を含む

53年度幹事

坂本 隆 栗原工業(株) Tel 0823-47-4381

務中公生 東芝エンジニアリング(株) Tel 0822-43-2304

事務連絡担当

川畑敬志 広島工業大学 Tel 0829-21-3121

今後、この会を発展させて行くために、皆様の参加を希望致しておりますので、幹事又は事務連絡担当者までご一報下さい。

尚、52年10月に参加したメンバーは下記の通りでした。  
片山国彦、坂本隆、吉原義昭(旧姓久保田)小浦勝昭、柴田寿志、務中公生、平田博帝、三野正国、寺田正、木山了至、安部千武、日名田俊朗、大森寿男、川畑敬志(順不同)

## 準会員だより

「第13回定期演奏会・  
第10回芸術展を終えて」

文化局長 平田 和彦

### 文化局

我々文化局に於きましては、この6月がいわゆる文化の時です。この時期にコンサート、展示会などがさかんに催されるのです。文化局も例にもれず、恒例の定演と芸術展を終えました。まずは、この報告を行いたいと思います。

第13回定期演奏会は、今年も郵便貯金ホールで行ないました。残念な事に天候に恵まれず、開演と同時にしゃぶりという最悪の状態でのコンサートを開催しました。

コンサート出演者は、マンドリンクラブ、グリークラブ、フォーク部、ロック部、軽音楽部でした。各クラブとも普段の練習の成果を出きるすばらしい演奏だったと思います。しかし、今年度はコンサートホールの広さの割には入場者が少なく、特に学内者(一般学生)の参加が少なく、自文化局のコンサートという、実感に欠ける残念なコンサートでした。

我々として今後も続ける定演をいかに盛り上げるか、重大な課題として残るコンサートだったと思います。

つぎに芸術展ですが、今年度は県立美術館の締め出しという最悪の事態で、中国新聞社の使用にふまざったわけです。入場者も地理的条件の悪さ、日曜の悪さ(日曜・土曜が借りれず)の為、芸術展はじまって以来最悪の入場者でした。

また発表部門の放送部と映画研究会の催しは、日立ファミリーで催された、これも展示と同様最悪の状態でした。我々としては、もっと多くの一般の人々に芸術というものに触れてもらいたかったのですが、以上、二大文化局行事を終え、今後の活動に於いて多くの反省点を見出し、解消していきたいと思っております。

又、同窓会に於きましても、是非とも文化局サークルへの御支援をお願いしたいと思います。特に文化系サークルは、OBの技術指導、援助が、体育系サークルに比べ少なく、サークル員も現在、伸び悩んでいる状態ですので、少しでも多くの指導をお願いしたいと思っております。

## 体育会

「敵なしノ広島工」を目指して

第三期体育会本部長

妹尾 幸治



新聞のスポーツ面を開いて、先ず何の記事を読まれますか。カーブの記事を一番に読まれるのは、当然かもしれません。が、その次に、ぜひ紙面の片すみにも目を落としてほしいのです。

そこには小さな見出しで、「広島6大学リーグ戦」「中国地区学生選手権大会」等、試合結果だけの記事が載っています。その中にきつと、母校広島工の名があるはずですよ。それには、大きな写真もなければ、ヒーローインタビューも書かれていません。しかし、その紙面ににじんだ汗を読みとってほしいのです。

広島工大体育会も設立以来、第三期を迎えています。体育局当時の活動を基盤に、よりスケールの大きな全学的組織として活動しています。

事業面においては、体育行事の質量ともむつたる充実をはかり、学生の積極的な参加を呼びかけています。広報面においても、体育会誌、鬼がわら、工大スポーツなどの定期刊行物により、会員のスポーツ意識の向上に努めています。その他にも本部では、体育用具の貸し出しも行ない、学生生活におけるスポーツの定着を推進しています。

こうした一般会員を対照とした活動と並んで、サークル活動があります。先輩の中にも、在学当時サークルに入って活躍されていた方多いと思います。現在、サークルも30を上回り、活動の和も広がっています。しかし、その半面、予算、施設、指導者の不足が問題化しているのも事実です。限られた予算、施設で、行事やサークルの数が増すのですから、当然の結果かもしれません。しかしサークル員一同、先輩が苦勞して築かれたクラブをより盛り立てようと汗を流しております。

各運動部も歴史を積み、OBも百名を数えるに至った部もあります。それぞれOB会、同窓会があるかと思えます。現役としても、OBの指導面、経済面の援助を大いに期待しております。

体育会本部も、同窓会と体育会が一体となった、スポーツの振興を目指しています。いつの日か、スポーツ面のトップ記事に「敵なしノ広島工」の大見出しが出る事を夢みて……